

* 塔望遠鏡の観測野帳発見

塔望遠鏡の建物は有形登録文化財に登録されている。そのドームの雨漏りがひどく昨年未だにドームの雨漏り対策としてドームの銅板の葺き替え工事を行った。引き続き年度末には通電を止められていた塔望遠鏡室の電力回復工事を行った。そしてこの有形登録文化財である塔望遠鏡の有効利用を考え、まずは大々的な掃除を行っている。

その掃除の途中、机の上の雑物の山の中に埃にまみれた「塔望遠鏡の観測野帳」を発見した(写真1)。この野帳には1956年3月から1966年5月までの10年間の記録がある。



写真1 発見された塔望遠鏡観測野帳

この観測野帳は1956年から始まっている。塔望遠鏡の梱包を解いて設置したのは103歳でご健在の藤田良雄先生である。藤田先生が塔望遠鏡を立ち上げた際書かれた記事が天文月報第28巻第3号(1935年)にある。この記事の中に3個のプリズムを用いた分光器について書かれている。この3個のプリズムは筆者の手で保管されているから、この分光器については稿を改める。

この観測野帳には日付は入っているが、観測者、担当者の名前が一切書かれていないという奇妙なものである。まず第1ページが写真2である。

1956
III. 24. (±)
Infrared

I	Exposure		Exp.	D(12 24)	
	A	C		λ	S
0	18° 40'	322	X	4790	0.085
3	18° 40'		3 ^s		"
6	"		10 ^s		"
9	"		30 ^s		"
12	17° 40'	394	3	9360	"
15	"		10		"
18	"		30		"
21	18° 40'	406	3	7920	0.095
24	"		10		"
27	"		30		"
30	19° 40'	416	30 ^s	10460	0.10

全部 ウツラス

写真2 塔望遠鏡で発見した観測野帳1ページ

1ページは1956年3月24日土曜日から始まっている。1956年は昭和31年である。赤外線観測をしたようであるが、「全部ウツラス」と記載されている。こういった観測野帳には観測者、担当者の名前を記すことが義務ではないのかと思うが、塔望遠鏡は決まった観測者しか使用しなかったから、当然誰と書く必要もなかったのであろうが、50年以上の年月を経て、もはや観測者が誰とも知れぬのは残念である。

最後に近いページが写真3である。

327

1965 I 12

No.	λ	Filter	Exp.	Result
1	λ 5227	Cr2	10 sec	38.35
2	λ 6310	CrE	15 sec	46.3
3	"	"	10 sec	46.3
4	λ 6171	SiI	30 sec	48.63
5	"	"	10 sec	48.63
6	λ 6371	SiII	10 sec	54.65
7	"	"	10 sec	54.65
8	λ 4372	CrII	20/18 min	55.13
9	"	"	10 min	55.13
10	λ 2618	CrE	27 min	

328

1965 Jan. 13

Plate No.	λ	Exp.	Result
1	6310	15s	38.35
2			42.4
3	6371	40s	48.63
4		40s	48.63
5	6131	20s	48.7
6	4572	10m	46.2
7	4618	10m	54.55
8	4701	20m	55.03
9	4732	20m	54.6
10	group 7	12s	57.2
11	group 6	12s	37.22
12	group 5	12s	36.72
13	group 4	12s	36.35
14	group 3	12s	35.5
15	group 2	10s	34.7
16	group 1	10s	33.27

写真3 1965年1月のページ

そして最後のページが写真4である。1966年には筆者は塔望遠鏡を担当していた。

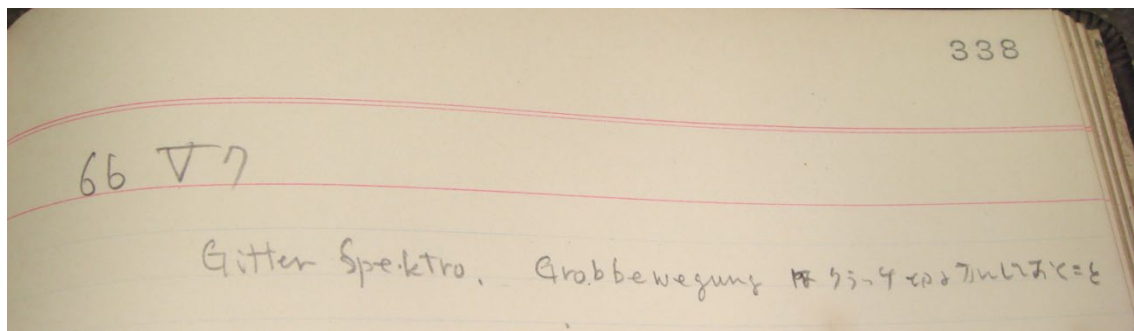


写真4 発見された塔望遠鏡観測野帳の最後のページ

筆者は、1966年4月、岡山天体物理観測所から三鷹の東京天文台に転勤し、死んでいた塔望遠鏡を復活させることが最初の仕事であった。5月7日には観測が始まっていたという証拠でもある。塔望遠鏡復活のために秋葉原に通った遠い日を思い出している。